

渡辺 豊和、『記号としての建築』、昭和堂、1998

- i はじめに
 - * 建築 = 物語
- ii 建築の言葉 記号の体系としての言葉がある
- iv * ソシユールの言語記号論から
 - 建築における能記 (Sa) と所記 (Sé)

物語としての建築

- 1 **1 世界の切り分け**
 - * 文明と建築
- 2 建築は突然に誕生
 - : 自然から徐々に分離し住居に至るのではなく、墓陵を建築した時に成立
- 3 * 自然は無限界テキスト
 - それを分割し、単位化して差異化する行為がエクリチュールとしての建築創造である
- 7 **2 物語と建築 統合の単位と体系**
- 8 * パルト『モードの体系』モデルと建築空間の解析
- 9 文章の構造解析
 - 建築における困難さ：全体が一体化しているため衣服のように断片化が難しい
 - 壁や屋根といった外部の部位、柱列、尖頭アーチといった内部の部位を上位から下位まで分別してリスト化した方が空間の構造解析には役立つ
- 11 * ゴシック様式の空間構造分析 (モードの体系式)
- 12 * パルトの「物語の構造分析」理論との対比
 - : 語 (天井や壁) 文 (部屋) ディスクール (団欒のゾーン)
 - * 分布的配列 (時間の進通行りに物語が展開) と組み込み配列 (時制が入り組んだもの)
 - 並列型 (学校スタイル) と複合的主従型 (教会スタイル)
- 13 * 物語の機能との対比
 - 枢軸機能体 = 教室などの主機能空間
 - 触媒 = 廊下のような部屋と部屋を結ぶ結節空間
- 14 * 物語の進行状態との対比
- 15 継起的 = ヴェルサイユ宮殿
 - 因果的 = ?
 - * 建築における登場人物
 - ヨーロッパ古典建築では「素材」：素材が違ってても表現としての様式は守られている
 - 近代建築では「鉄筋コンクリート」など
 - * 登場人物の行為
 - 建築方法
- 16 **3 映画と建築 場面展開の技法**
 - * 映画言語理論 (マルセル・マルタン『映画言語』)
 - 建築における省略法：装飾の排除
- 19 * 映画が出現して初めてル・コルビュジェのように場面展開を意識した空間構成が編み出された：場面展開 句読点
 - 建築における場面展開

- 21 ex. ラ・ツォレット修道院：礼拝堂 + 僧房 + 講堂などが合体（図20）
- 22 * モンタージュ理論と建築との対比
 : 物質的シーケンスの法則
 : 心理的緊張の法則：「不在」の重要性
 : 劇的進行の法則 ガウディのゲエル公園（p.107 図42）
- 23 **4 空間の進化**
 * 建築は言語記号に比べ抽象度が低い
 記号としての汎用性は低い、逆に身体的である
- 26 * ユングにおける象徴機能：元型
 建築：バンテオン ハギア・ソフィア（図22） モスクなど
- 27 : 元両親（ウロボロス）
 チャタルフック（世界最古の都市：BC6000年：トルコ）
 : 元父（ファラオ） ピラミッド
 : 元母（女神カーリー） キプロス島のキロキティア
 : マニア（女性性 vs 男性性：アニムス） パンティオン
 : 英雄 パルティノン

建築と言語

- 29 **1 意味分析**
 * 井上充夫『建築美の世界』からアーメディエ（イスタンブール）の一節
 一般人を対象にしたエッセー：記述は具体的かつ明快：形容詞
- 32 * 中村順平『建築という芸術』から東大寺鐘楼の一節
 専門書：さらに具体的：直裁的表現
- 35 * 中村（ibid）から群馬県の貫前神社の一節
- 37 * 栗田勇（詩人）『現代の空間』からゲエル公園の一節
- 38 動詞の多用：動きの表現 & 豊富な多彩な述語の駆使
- 39 詩人の目 映画監督かカメラマンの視る目
- * フィリップ・バウムガルト『西洋建築様式史』（翻訳）
 カルナック・アモン神殿（エジプト）
 シチリア島ナパエストム・バシリカ
 サン・ヴィターレ教会堂（ラヴェンナ）
 カサ・ミラ（ガウディ作）などの描写
- 42 **2 所記と能記**
- 43 * ギロー『意味論』から Sa/Sé の説明
- 44 * オグディン&リチャーズ：三角形
 * 語の起源は有縁的【??】
- 47 **3 ラングとパロール**
 * ソシュール&丸山から
 パロールは会話の言葉、ラングは一つ一つの単語【??】
- 48 * 言語におけるラングは歴史を背負うゆえに通時態、パロールは発話して初めて表面化するラングであるから共時態【??】
- 50 * 言語学の対象はランゲージュ（ラング：語）【??】
- 52 **4 ラング（通時態）としての建築**
- 52 * ロマネスク様式とゴシック様式
 様式上の特徴 = ラング
 それを組み合わせる建築家はパロールへと展開する
- * バウムガルト『西洋建築様式史』（ibid）から、上記様式の解説部
- 54 * ハンス・H・オークシュテッター『世界の建築 ゴシック』（上・下）
 ゴシック様式の定義

57 **5 パロール（共時態）としての建築**

- * パロールとしての読み取りには、同時代、同地域の建物の比較が必要
差異が建築家の個性
- : フランスの大聖堂：ランス（図13）とシャルトル（図14）
- 59 平面構成：シャルトルがロマネスクに近い vs ランスは細長い
- 60 立面構成：シャルトルは単調 vs ランスはリズムカル
- 62 : パリのノートルダム（p.64 図21）

建築における所記65 **1 所記が成立するための基礎的事項**

- * ワルター・グロピウスやル・コルビュジェらによる建築原理：
機能主義 意味の一元化：建築の目的をその機能に求める
所記 = 使用目的 「形態は機能に従う」（ルイス・サリバン）

67 * グロピウス『生活空間の創造』

機械製品 = 建築部品の個性的多様性 組み合わせはその使用目的に依存する

68 * バウハウス（グロピウスによる総合デザイン学校）の所記

配置計画が表す意味：所記

- 69 : ブリッジはデザイン学校と職業学校が分離される必要がないことを表す
- : デザイン学校内での連結 所記 = 教育理念
- : 大講堂の所記 = 実験劇
- : 建物全体の所記 = ダイナミズム
- : 小バルコニーの所記 = プライベートルーム
- 70 : 教室部分の所記 = 内部の外部化
- : 外観の所記 = 各階の平等性

71 * ル・コルビュジェにおける所記（ex. サヴォワ邸 p.73 ~ 図4~7）

「住宅は住むための機械である」

近代建築五原則

- : ピロティ
- : 骨組みと壁の機能的独立
- : 自由な平面
- : 自由なファサード
- : 屋上庭園

- 74 サヴォワ邸 「意味論的に言及するならば、今まで発話されたこのとないコトバを発して重大な内容を伝達している極めて初源的なパロールである」（渡辺） 以後、他の建築家たちに近代建築五原則が使用され、ラング化してゆく

75 **2 ル・コルビュジェにみる所記の実相**

* ル・コルビュジェ『建築をめざして』：近代建築の初期が満載

- 76 新しい建築の所記 = 自然の工学的理
（ex. 1926年の国際連盟本部のコンペ）
- 77 搭状都市の所記 = テラスの効用
- 79 住宅：機能別の部屋はその名前が所記
- 80 ドミノ型家屋の所記 = 量産
- 81 シトロアン型量産住宅（p.82 図13）
- 82 : 建物全体 = 自動車みたいな家屋
- : 家具 = 空間の経済
- 83 : 標準寸法 = 秩序

コルビュジェの人生の所記 = 革命

83 3 構造、材料など技術が示す所記

* S・ギーディオンの『空間・時間・建築』に沿って、構造、材料などが示す建築上の所記の考察

87 鍛鉄 鋳鉄 鋼鉄への技術進歩：建築家ではなく社会の方が工業化に適合した建築の新形式を求めた（ギーディオンの）

88 近代建築への道程：構造とデザインの融合過程

89 * アンリ・ラブルースト（アカデミー・デ・ボーザールで最優秀ローマ大賞を受賞）：代表作はパリの国立図書館（図15）

90 * デパートやエッフェル塔の出現（19世紀後半）

95 * 鉄筋コンクリートの所記 = 自由な表現

97 4 建築形態が示す所記

98 * エンリケ・カサネリウス『アントニオ・ガウディ』

99 アストルガ司教館：中世風聖堂とのデザインの「強調融合」（p.98）

100 テレシア学院（p.99）：光庭のあるゾーンは「水平的、内面の深さ」
101 ゲル邱（図31～）

103 : 内部空間の所記 = 「天上的崇高」

107 : 独立列柱の所記 = 「そこに生息する植物」

108 : 柱廊空間の所記 = 「真のファンタジー」

109 カサ・パトリヨ：立面外観の所記 = 怪物的生々しさ

113 カサ・ミラ

115 : 外観の所記 = 皺

116 コロニア・ゲル地下聖堂

119 : 空間全体の所記 = 内的、円的統一

121 サグラダ・ファミリア教会

124 : 形態の所記 = 唯一的、起源的様式の発生性

建築における能記

125 1 設計図のレクチュール

* 設計図 完全なる文字表記であり、エクリチュールと同レベルの記号連鎖

126 * 設計図（立方体である建築をX・Y・Z軸の直交三軸に分解し、各軸方向の平面展開を図化したもの）の基本は三図面：平面図、断面図、立面図であり、縮尺を上げたものが詳細図

* 秋田市体育館（1994）

128 一階平面図から読み取られる内容

129 二階平面図から

130 三階平面図から

131 立面図および断面図から

132 骨組図、空気調整図など

平面、立面、断面、配置の四図は一般図と呼ばれる

建物の概略を知る索引の役割を担う（それ以上は詳細図による）

133 展開図

135 2 設計図のエクリチュール

136 * ルネッサンス・マニエリスム期の建築家アンドレ・パラディオ著の『建築四書』から、設計におけるエクリチュールの側面を考察

150 3 言語から設計図への置換

151 * 長崎県対馬豊玉町立文化の郷

設計趣旨：対馬とクレタ島との対比

154 建築の能記の記述 イメージの前段階の言語化過程を見る他ない

- 164 言語化：「波打ち湾曲する内部空間」
 165 郷土資料館の言語化：「異文化接合の構造表現とその内面化」

様式形成のメカニズム

- 166 **1 信号機能による記号分類**
 * 山元一郎『コトバの哲学』(1965)に基づく理論
 記号形成の基本的プロセス
 : 刺激 反応の条件反射 刺激による信号 信号の社会化をへて記号となる
 * パプロフによる信号系
 : 第一信号系：条件刺激体：ブザーの音 食餌
 : 第二信号系：ブザーの音を「ブザーの音」という言葉にすること
- 168 * 幼児の言葉習得プロセス（図参照）
 D：非言葉 [Dst：非言葉的条件刺激体 / Dre：非言葉的反応]
 V：言葉 [Vst：言葉的条件刺激体 / Vre：言葉的反応]
 : [Dst Dre] [Vst Dre] [Dst Vre] [Vst Vre]
 : 言葉の一般化された意味を現実で分化する
 : 現実を言葉で抽象化する
 : 言葉が事象から独立する
 * 第三信号系：言葉的概念によって分解された現実的個物または個別的事象の相互の関係を表すことのできる言葉：信号の信号の信号
- 170 **2 三つの信号系の階型化 記号のメカニズム**
 * 山元&ラッセルによる信号系の論理的構造の説明
- 173 **3 言葉の「あいまいさ」とその補填の方法**
 * 山元による第三信号系の論理的意味構成のメカニズムの説明
 言語と形態の接点としての比喩の方法
- 177 * 比喩の相互交渉説
- 180 **4 形態の感性的個物性と意味伝達のメカニズム**
ゲシュタルト論美学を基盤として
- 181 * モリスによる（アイコン）記号の分類
- 182 * 渡辺の建築論の発想の基本
 造形作品は記号の集合体としてそのものも記号である
- 183 * パースによるアイコンの特性の説明
- 188 * ルドルフ・アルンハイム『美術と視覚』
 バランス：重さと方向からなる基本的構成技法
 形：形の特徴を知覚することからなる
 形式：対象の表示の仕方
- 192 **5 形態における抽象表現のプロセス**
- 193 * かたちの意味構造
 かたちの習得過程（言葉の習得モデル）
- 194 抽象美術や建築は第一信号系を信号する信号作用ではない 第三信号系
- 196 **6 建築における意味伝達のメカニズム**
 * 造形物一般の形態に対する建築形態の位置づけとその意味伝達のプロセス
- 197 * 建築における抽象化 建築史における建築技術の発達過程
- 199 : 洞穴住居
 第一信号系：自然の暴威に対する条件反応
 : メソポタミア初期の住居
 第二信号系：住居単位は中庭を持ち、光に対するプランニング技術

	がある
	第三信号系：多層空間
201	：多層階住居（ex.：コルビュジェのヴィラ・ショダーン）
204	第三信号系的抽象空間＋定性的信号系（文学言葉）
205	7 様式変遷の図式的意味分析
	* 建築様式そのものの意味伝達：コッシックからバロックへ
	メソポタミア：ウルのニン・ガル神殿
	：迷路のような内部空間：古代の蟻的建築造営
206	エジプト：ピラミッド
207	：山：絶対静（性？）、安定、完成
209	ローマ：パンティオン
	：球形：天球：現実的ローマの政治的・宗教的絶対性
210	バロック：ノイマン巡礼教会堂
214	：内部空間 人間の情念に対応した空間（楕円形のような多焦点構成）
	トルコ：ミマール・スイナンの作品群：神への上昇

i	索引
v	図版出所一覧